

日本家庭医療学会会報

第50号

発行日 2004年6月1日

ホームページ : <http://jafm.org/> E-mail : jafm@a-youme.jp

第18回日本家庭医療学会学術集会報告

学術集会を終えて

東京ほくと医療生活協同組合
北部東京家庭医療学センター
藤沼 康樹

このところの学会会員数の指数関数的な伸びを反映して、参加者も350名を超え、とても活気の感じられる総会となりました。また、会場も早稲田大学の木村利人先生のご尽力で、とても魅力的な場を確保する事ができました。

学会の主役である口演、ポスターセッションはとても活発な議論がなされ、研究の質も年々向上していると感じました。研究は家庭医療の発展のためにとても大切なものです。来年もたくさんの演題のエントリーを期待したいです。

今回、英国ロンドン大学インペリアルカレッジ医学部から、一般医・家庭医部門の教授であり、プライマリ・ケアにおける継続性の問題に関する研究で著名なジョージ・フリーマン教授と、奥様でGPチューターでもあるアリソン・ヒル先生が、この学会のために来日していただき、特別講演、教育講演、ワークショップなどフルに参加していただきました。フリーマン教授ご夫妻は、私が今から8年前に英国に滞在した際、さまざまなアドバイスをいただき、日本で家庭医療の実践、教育、研究を進めていく勇気をいただきもした恩人であ

(次ページにつづく)

プログラム



開催日時 2003年11月15日(土)
12:30 ~ 18:40
16日(日)
9:00 ~ 16:30

場 所 早稲田大学国際会議場
参加者数 369名(うち学生52名)

- 1) 口演発表 34演題(2会場使用)
- 2) ポスター発表 25演題(一般演題4、施設・プログラム紹介13、ワーキンググループ報告8)
- 3) 特別講演 70分 大ホール
- 4) 教育講演1
- 5) 教育講演 290分 会議室
- 6) 大会長講演
- 7) 総会
- 8) ワークショップ(以下WS)
10WS(90分を8WS、180分を2WS)
- 9) スペシャルインタレストグループ(以下SIG)
3つ(各90分)
- 10) 懇親会
懇親会会場 大隈ガーデンハウス
懇親会参加者数 180名(うち学生19名)

その他:

- 1) 特別教育ワークショップ:
参加費別途 4000円/人。参加者は約40名。
- 2) 書籍展示託児所: 共同研究室2部屋を使用。
利用者数 5名 子供数 7名
- 3) 学生会: 開催期間中を通して共同研究室1室を提供。来年の夏季セミナーについての会議等に使用。

この号の主な内容



第18回学術集会報告	1
春のワークショップ報告	2
第19回総会・学術集会ご案内	4
第16回夏期セミナーご案内	4
リレー連載「診療所研修」	5
運営委員会報告	6
事務局からのお知らせ	8

り、今回来日していただける事になった際は、本当に感激しました。フリーマン夫妻も、家庭医療学会が実に情熱的であることに大変感銘され帰国されましたが、今後の様々なコラボレーションを約束されています。

また、今回会場のご紹介をはじめ、さまざまな御協力をいただき、バイオエシックスに関する貴重な講演をいただいた木村利人先生との出会いもまた印象的でした。学会のうちあわせで、都内白山の豆腐料理店で一緒に食事をする機会に恵まれ、様々なお話をきかせていただきました。木村先生は学生時代に作詞家になろうと考えておられたこと、ちなみに「しあわせなら手をたたこう」は木村先生作詞です。また、ルバン島島の「小野田さん」搜索をはじめ、実に多くの外国で活躍されてきたこと。そしてなにより、木村先生はバイオエシックスを日本に紹介した方ではなく、米

国でそれをリアルタイムで創造してきた、まさにパイオニアだということなど、その暖かいお人柄と相まって、本当に魅力的な方でした。

また、プレワークショップではオーストラリアからRACGPのメンバーがタスクフォースとして来日され、熱心な意見交換が行われました。

いつも人気のワークショップは、ボランティア精神溢れるチューターの先生方の御協力で成功しましたが、会場のスペースや定員の設定など、まだ課題を残してまいります。

今回大会長の重任を仰せつかり、大変プレッシャーを感じておりましたが、協力してくれた事務局長の大野每子先生をはじめとした運営スタッフと、そしてなにより参加していただいたすべての会員の方々によって、無事に成功させることができました。本当にありがとうございました。

第12回 家庭医の生涯教育のためのワークショップ

報告

日時 2004年3月13日(土)~14日(日)

会場 邦和セミナープラザ・名古屋市



耳鼻咽喉科の身体検診

各部位の所見の取り方と 実際の写真による記載方法について

かみで耳鼻咽喉科クリニック 上出 洋介

診療所で撮影された耳鼻咽喉科領域のPC画像を用いて、耳、鼻、のどの所見の取り方と記載について行った。

鼓膜所見は主に急性中耳炎、滲出性中耳炎を中心に鼓膜腫脹、貯溜液の性状などを述べた。

鼻腔所見はPCで合成された鼻腔所見を用いて急性炎症、アレルギー性鼻炎、副鼻腔炎などの粘膜の色調の違い、鼻汁の性質の違い、所見の記載方法について述べた。

咽頭、喉頭は主に内視鏡動画像を用いて、緊急な病態(小児声門下腔炎、急性喉頭蓋炎、急性下咽頭浮腫)を提示し気を付けるべき点を述べた。

最後に実際に内視鏡を用いて有志の先生の鼻内、咽頭所見を観察した。

印象としてWSに不慣れな講師が欲張りすぎて耳鼻咽喉科全ての内容を盛り込んでみたため、全体的に慌ただしく終わらせてしまった感がある。もう少し一つの分野に絞り込んでゆっくり説明と討論をしたほうがよかったように思われる。

春のセミナー

よくある頭痛のお話

札幌医大医学部 地域医療総合医学講座

木村 眞司

副題を「家庭医的な頭痛診療」などとしてしまったため、どうしたものかと悩みましたが、せっかくのセミナーなのでinteractiveにという結論に達し、クイズ形式で行なうことにしました。札幌の東急ハンズで × の回答用の札を購入し、裏に とマジックで書き、33組ほど用意しました(一万五千円かかった...)

当日はひとりに一組ずつ回答用札を配り、頭痛に関するクイズに答えていただきました。やはり皆がいっせいに札で回答する方が、挙手をするよりも羞恥心を感じずに済むようです。頭痛に関係のない質問を連発し参加者を大いに悩ませました。ちょっと悪乗りし過ぎの感もあったのですが、ひとりも眠らせないという当初の目標を達成し、安堵いたしました。参加者の方、ご協力ありがとうございました。



小児科外来での抗菌剤の使い方 どんな時に、何を、いつ止める

森川ことクリニック 森川 嘉郎

小児科外来で経験する疾患で抗菌剤が必要と思われる疾患は限られているので代表的疾患についての知識があれば適切な化学療法が可能になる。疾患別の主な起炎菌と使用抗菌剤は次のようにまとめられる。

疾患	起炎菌	抗菌剤
上気道炎	<i>S.pyogenes</i>	AMPC 再燃時はCVA/AMPC
中耳炎 気管支炎 肺炎	<i>S.pneumoniae</i>	AMPC CDTR
	<i>H.influenzae</i>	AMPC CVA/AMPC CDTR
	<i>B.catarrhalis</i>	CVA/AMPC
	<i>M.pneumoniae</i> (年長児)	CAM
腸管感染症	<i>Salmonella</i>	KM, FOM
	<i>Campylobacter</i>	KM, FOM
	<i>K.oxytoca</i>	KM
	<i>E.coli</i>	KM, FOM
尿路感染症	<i>E.coli</i>	CCL, AMPC
	<i>P.mirabilis</i>	AMPC
	<i>K.pneumoniae</i>	CCL
皮膚感染症	<i>S.aureus</i>	CFDN, FOM

AMPC: Amoxicillin, CVA/AMPC: Clavulanic acid / Amoxicillin,
CDTR: Cefditoren pivoxil, CAM: Clarithromycin, KM: Kanamycin,
FOM: Fosfomycin, CCL: Cefaclor, CFDN: Cefdinir

緩和ケア

ターミナルケア

筑波大学臨床医学系 木澤 義之

近年ホスピス・緩和ケア病棟が増加し、国民の緩和ケアのニーズも高まっています。しかしながら、がん死亡のわずか3%が緩和ケア病棟でおきているにすぎず、多くの死は一般病棟や在宅で起こっています。

しかし、われわれ臨床家は一般的に積極的に治療を行うことについては教育されますが、緩和ケアについて、つまり積極的治療が難しくなった患者・家族にどのようにコミュニケーションするかについては教育を受ける機会が少ないのが現状です。この現状に鑑みて、この分科会では『悪い知らせをどう伝えるか』について、ロールプレイを交えながら、アメリカ臨床腫瘍学会で提唱されているSPIKESを日本流にアレンジした教材を用いて体験型学習を行いました。また同時に、患者さんご家族の解答困難な問に答える方法の実例を提示させていただきました。

循環器

心臓診断のアプローチ

伊賀内科 循環器科 伊賀 幹二

病歴聴取、身体診察、一般血液検査、胸部X線、心電図から総合的に考えることにより心臓疾患のおおよその診断をつけることができる。診断過程では診察後や心電図、胸部X線をみてからポイントをしばった病歴の再聴取を行うことが通常である。

PC医にとっては、3/6度以上の心雑音とギャルップリズムは検出することが到達目標である。心エコー図は循環器専門医が施行するべきものであるが、その有用性と限界については知っておくべきである。

泌尿器科

ワークショップ 排尿ケア

横須賀市立うわまち病院 奥井 伸雄

尿失禁の分類と具体的対策について、マンガと実際のオムツに水を吸収させその感触と水の移動経過を観察するといった方法を用いてWSが行われた。排尿日誌の実際と読み方、オムツの種類と選び方・当て方、パッドテストや骨盤体操についても説明。高齢者の夜間頻尿で、ADH分泌不全に基づく夜間多尿が病態として関与(約30%)しており(小児の夜尿症と同じく)、睡眠障害 ADH分泌不全 夜間多尿 夜間頻尿となる病態の連鎖を断ち切る必要がある。

身体診察

素早く、効果的な身体診察

身体診察の考え方と使い方

東京慈恵会医科大学 総合診療部 古谷 伸之

触診法による血圧測定は実際の臨床では省かれる傾向にあるものの、その意義が十分に理解できれば絶対的に必要な手技であることが理解される。また、胸部打診も同様に省かれる傾向にあるが、一般的に行われている打診法そのものが正しい方法でないことに起因している。このような、身体診察法の問題点をひとつづつ確認しながら検証し、受講者の理解と実践への動機づけを試みた。後半には、スクリーニング身体診察の考え方を呈示しその実践と意義を検討した。

第19回 日本家庭医療学会総会・学術集会

テーマ 「期待される家庭医像をもとめて」

日時 2004年11月6日(土)7日(日)

会場 さいたま市大宮ソニックシティビル・小ホール

会頭 梶井英治(自治医科大学 地域医療学センター地域医療学部門/附属病院総合診療部)

交通案内

上野から 東北本線(宇都宮線)・高崎線で25分、
新宿から 埼京線快速で34分、
東京から 東北・上越・長野新幹線で25分、
羽田から 東京モノレール 浜松町・上野乗り換えまたは京浜急行 品川・上野乗り換え1時間15分

事務局 〒329-0498 栃木県河内郡南河内町薬師寺3311-1自治医科大学地域医療学 内
T e l 0285-58-7394
F a x 0285-44-0628
E-mail dcfm@jichi.ac.jp
U R L <http://www.jichi.ac.jp/usr/tiik/index.html>

医学生・研修医のための 第16回 家庭医療学夏期セミナー

(<http://family-s.umin.ac.jp/seminar/seminar16/index.html> 参照)

日時 2004年8月7日(土)~9日(月) 2泊3日 場所 長野市

セミナー会場1 : 長野県社会福祉総合センター 長野市若里1570-1 / TEL. 026-227-5201

セミナー会場2 : 長野市若里市民文化ホール 長野市若里3-22-2 / TEL. 026-223-2223

宿泊・懇親会 : 信州松代ロイヤルホテル 長野市松代町西寺尾1372-1 / TEL. 026-278-1811

内容

1日目 「家庭医とは何か」

第一線で活躍される方々のお話をもとに、家庭医・家庭医療について考えていきます。

2日目 「家庭医に必要な知識・技能・態度を理解する」

選択制のセッションで、家庭医にとって必要な知識・技能・態度を学びます。特に今年は低学年から研修医まで幅広い層を対象としたセッションを用意しています。

3日目 「生じた疑問、不安を解決する」

2日間のプログラムを通して生じた疑問、セミナー以後につながる不安などを解決するために話し合います。(選択制)

さらに12日目の夜には、家庭医の先生方と全国から来る医学生・研修医が大いに語り合える場も設けます。

なお、予定は変更になる場合があります。ご了承ください。

定員 200名

参加費宿泊費・食費・懇親会代込み

学会員学生 19,000円 学会員医師 25,000円

非会員学生 21,000円 非会員医師 30,000円

申し込み 5月17日開始

締切 7月初旬(定員に達し次第締切)

プログラム概要

特別講演

高知県・高知市病院組合 理事 瀬戸山元一氏

シンポジウム

日本における「家庭医」の実現のために

シンポジスト未定

ワークショップ(いずれも仮のテーマです)

市民への「家庭医」普及作戦会議、患者教育(応用)、患者教育(基礎)、予防医学、EBM初級(学生・研修医向け)、EBM教育の展開(指導医向け)、家庭医療における禁煙支援標準作り、大学における家庭医療学の教育、家庭医療学レジデンシーをめざして(学生・研修医向け)、Problem Learnerの取り扱い、などのテーマで事前登録制で行います。また、家庭医療学における女性医師、コーチング理論の応用について実施に向け計画・交渉中です。

フォーラム

ワークショップの枠内で、家庭医療学レジデンシー経験者が一堂に会してのフォーラムを計画しています。

教育講演

「症状から診断へ」、「新しい創傷治療」ほか、計画中です。

一般演題

7月ごろ、口演・ポスターの両方を募集開始の予定です。

施設・研修プログラム紹介

ポスター形式で、一般演題と同時に募集します。

募集中

「慢性疾患へのアプローチ」と「思春期の健康管理」を教育講演で担当していただく方を募集中です。自薦他薦問わず、ご連絡をお待ちしています。

その他、スペシャルインタレストグループ企画なども模索中。

参照ホームページ：<http://jafm.org/autumn/index.html>



リレー
連載

診療所 研修

(医)木戸医院
木戸 友幸

診療所研修を始めてそろそろ5年になるとうしている。始めは、PCFMネットの先生方とあてもないこうでもないと手探りで始めた。初年度は、数ヶ月に一人実習に来る程度であったが、実習学生のポジティブな反応が確実にこちらに伝わってきて、これは大鉱脈を掘り当てたという感触を感じた。

その感触は当たっていて、年を経る毎に研修者数は増加していった。またこれに追い討ちい

い意味で 産み出したのが、2004年度からの研修義務化であった。プライマリ・ケア研修重視が感覚的に診療所研修と結びつくためか、2003年度は医療マスコミの取材が殺到し、数週間続けて各社から取材を受けたこともあった。診療所研修の医療・医学におけるさまざまな議論は、それらの取材の折りに語り尽くした感があるので、当コラムでは、今何故診療所研修なのかについての、現代日本における社会的側面を少し考えてみたい。

ここ数年ほど、NHKテレビのプロジェクトXを始めとする、派手ではないが真面目にコツコツと仕事をしてきてある成果を

挙げた人の再評価を取り上げたマスコミ番組が評判を呼んでいるようである。医学・医療の世界で、この真面目にコツコツの部類の医師集団は、やはり開業医師ではないだろうかと思われる。マスコミと医療という二つのキーワードからすぐに連想されるのは、医療過誤報道であろう。この場合、医療過誤を指摘される機関のほとんどが大病院である。医療マスコミに携わるジャーナリストの中でも、有能な人たちは、その原因がスタッフ不足などの構造的なものであることが、分かっているようである。その反動か、比較的スタッフも豊富で、こまめにフォローも出来る開業医の診療所での医療が見直されてきているように思える。欲目かも知れないが、最近の新聞やテレビの報道で、開業医を取り上げたものは、その医療に対して好意的なものが多いように思われる。

以上に示したメディアの潮流は、恐らく現代日本の世論とほぼ一致するであろう。

こういう社会的な追い風があるときに、診療所をよりどころとする多くの家庭医の学術団体である当学会が、診療所研修についてより積極的に取り組んでいくことは、非常に意義深いことであると思うとともに、更なる飛躍への千載一遇の機会になると思う。



日本家庭医療学会運営委員会議事録

日時：2004年3月13日 13時00分～18時30分

場所：邦和セミナープラザ・名古屋市 2階2号室

出席者：山田隆司 葛西龍樹 竹村洋典 津田司 伴信太郎 内山富士雄 岡田唯男
木戸友幸 武田伸二 田坂佳千 名郷直樹 前野哲博 松下明 木村眞司(代)

議題

1. 会員数報告、新入会員承認、会費未納退会者(名郷幹事)
 - 1) 新入会員85名承認(営利目的でなければ医師、コメディカル以外も入会可能確認済)
 - 2) 退会者7名承認
 - 3) 会費未納者の扱いについて
2年間会費を未納している者は督促状を一回送付する。それでも未納の場合は自動的に退会とする。
督促業務はあゆみコーポレーションに依頼する。
2. 2003年学術集会決算報告(藤沼先生文書)
 - 1) 学術集会決算報告承認
2003年学術集会収支88,512円のマイナス。赤字部分は事務局から助成金(200,000円まで)の補填で今回は対応。
 - 2) 2004年学術集会は会場費発生が見込まれるため(03年度は会場費無料)予算立て注意する必要あり。
3. プライマリ・ケア研究セミナー報告(山田会長)
 - 1) 2004年2月28日、29日東京 都道府県会館 地域プライマリ・ケア研究セミナー開催報告
 - 2) 2004年3月27日、28日東京 都道府県会館 家庭医療生涯教育ワークショップ開催予定
4. 2004年第12回家庭医の生涯教育のためのワークショップ報告(武田先生)
2004年3月13日、14日名古屋邦和セミナープラザ 家庭医の生涯教育のためのワークショップ開催
参加者110名 キャンセル待ち20名 早くに締め切った 前年より盛況
希望者が多いため今後は募集人数増員および回数増やす方向を検討したい。
5. 常設委員会その他運営委員の役割分担について(山田会長)
 - 1) 委員役割分担(別紙)承認
 - 2) プライマリ・ケア教育関連協議会担当 葛西氏、竹村氏2名に決定
6. 2004年第16回夏期セミナーについて(前野先生)
2004年8月7日、8日、9日長野(03年と同じ)で開催予定(1セッション30名以下で構成を組む予定)
予定人数200名
7. 2004年第19回学術集会について(梶井先生文書)
平成16年11月6日、7日大宮ソニックシティで開催予定
8. WONCAと同時開催、2005年第20回学術集会の講演等について(山田会長)
 - 1) 2005年5月27日～31日WONCA2005アジア大会開催予定
 - 2) プライマリ・ケア学会、総合診療医学会、家庭医療学会学術集会同時開催予定
 - 3) 家庭医療学会では以下の3つを予定する。(WONCAと並列で予定調整)
WONCA2005アジア大会での一般演題発表

(英語ポスタープレゼンテーション、日本語ポスタープレゼンテーションも可)
家庭医療学会総会の開催(場所、時間、確認必要)
Meet the Professor(仮)(海外の家庭医について講演)の開催
講師:WONCA委員 対象:研修医、学生優先
場所、日時、調整必要 学生参加のため28日土曜日午後開催が好ましい。

9. 2005年第13回家庭医の生涯教育のためのワークショップについて(武田先生)

- 1) 2005年ワークショップは夏の開催を考慮中(夏期セミナー、他学会と同時開催したい方向)
年間スケジュール、開催予定地(地方)の調整が必要
- 2) 状況に応じて秋のワークショップ開催も考慮(業務量、業務分担含めて検討)

10. 会誌家庭医療について(藤沼先生文書)

印刷については、あゆみコーポレーション印刷会社に決定。
6月中に発行予定

11. 今後の会報について(木戸先生)

印刷および発送はあゆみコーポレーションに依頼
現在検討中
今後はCME(委員に依頼)の掲載も考慮中

12. 役員の旅費について

- 1) 収入増加の検討必要(会費未納者より会費徴収の徹底、個人寄付の検討等)
- 2) 予算再度収支確認。委員への旅費についても予算確認のうえ、検討。
- 3) 会費のアップは今回は見送る。

13. 次回の運営委員について

平成16年8月8日日曜日朝7:00より 夏期セミナー時 場所は後日連絡

14. その他

1) 事務局業務外部委託について

あゆみコーポレーションが挨拶、委託先として承認
業務委託契約書(2004年1月15日~9月30日)(別紙)の締結承認
基本業務費用 初期費用(別紙)月割りで今年度支払い承認
追加委託項目については高額なもの以外は会長決済で行うことについて承認
会誌、会報、および別刷の編集、作成、印刷、謝礼渡し、発送業務も一括して委託すること確認
夏季セミナーポスター印刷発送業務も一括して委託すること確認
WEB管理確認

2) 各種イベント内での会費集金、会員受付について

委託は行わない。ブースを設けて担当者が対応する。

事務局からのお知らせ



メーリングリストの加入について

メーリングリストに加入してコミュニケーションの輪を広げよう！

現在、約550名の会員が参加しています。希望者は以下の要領で加入してください。

参加資格

日本家庭医療学会会員に限ります。

目的

メーリングリストは、加入者でディスカッショングループを作り、あるテーマについて議論したり、最新情報を提供したりするためのものです。家庭医療学会の発展のために利用していただけたら幸いです。

禁止事項

メールにファイルを添付しないでください（ウイルス対策）。個人情報をこのリストの中に流さないでください（自己紹介は可）。ごくプライベートなやりとりを載せないでください。

加入方法

学会のホームページの「各種届出」のページから申し込むか、事務局宛に次の事項を記入の上、E-mailで申し込んでください。

会員番号(学会からの郵便物の宛名ラベルに記載されています)

氏名

勤務先・学校名

メールアドレス

会員であることを確認した上で登録いたします。

入会手続について

当学会に関心のある方をお誘いください。学生会員も大歓迎です。入会手続については、学会のホームページの「入会案内」をご覧ください。事務局までお問い合わせください。

会費納入のお願い

会員の皆様の中で、会費の納入をお忘れになっている方はいらっしゃいませんか。ご確認の上、未納の方は早急に納入をお願いいたします。2年間滞納されると、自動的に退会扱いとなりますのでご注意ください。ご不明な点は事務局へお問い合わせください。

異動届けをしてください

就職、転勤、転居などで異動を生じた場合はなるべく早く異動届をしてください。

異動届は学会のホームページの「各種届出」のページからできます。または事務局宛にE-mail、FAX、郵便などでお知らせください。

日本家庭医療学会事務局

〒550-0003

大阪市西区京町堀1-12-14 天真ビル507号

あゆみコーポレーション内

TEL 06-6449-7760 / FAX 06-6447-0900

E-mail : jafm@a-youme.jp

ホームページ : <http://jafm.org/>

編集後記

今回、家庭医療学会会報の編集をはじめ担当しました。

構成や発行はあゆみコーポレーションにお願いして、全体の枠組みや原稿集めが中心の仕事でしたが、結構難しいものです。

締め切り厳守にご協力いただいた先生方に感謝いたします。

今後CMEコーナーを徐々に充実させていく予定です。

まずは、現在話題の診療所実習についてコラムのリー連載を始めました。新役員を中心に展開していきます。乞うご期待！



発行所：日本家庭医療学会事務局

(あゆみコーポレーション内)

会報誌担当役員：木戸友幸・田坂佳千

会報誌編集担当役員：松下 明

〒708-1323 岡山県勝田郡奈義町豊沢292-1

奈義ファミリークリニック

E-mail : akimat@mb.infoweb.ne.jp